

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	産業建設常任委員会		会議場所 全員協議会室 担当職員 佐藤
日 時	令和3年10月15日(金曜日)		開 議 午前 10 時 00 分
			閉 議 午後 1 時 48 分
出席委員	◎赤坂、○奥野、田中、小川、藤本、木曾、菱田、(福井議長)		
出席理事者	【産業観光部】由良部長 [農林振興課]松本課長、佐藤担い手支援係長、荒美食農ブランド係長 松本林務・鳥獣対策係長、和田主査		
出席事務局	山内事務局長、佐藤主任		
傍聴者	市民0名	報道関係者0名	議員0名

会 議 の 概 要

10:00

1 開議 (赤坂委員長あいさつ)

[事務局主任より日程説明]

2 案件

[産業観光部入室]

[産業観光部長あいさつ]

(1) 森林整備・林業担い手について (農林振興課との意見交換会)

[農林振興課長 資料に基づき説明]

10:24

[意見交換]

<赤坂委員長>

第5次亀岡市総合計画にも、森林整備やバイオマス等が記載されているが、書いてあるだけで進んでいないと思う。新しい森林の取組などは考えているのか。今後森林をどうしていくのか。

<農林振興課長>

いろいろと現場を見させていただいているが、3年前の台風で倒木が多く発生しており、ひどい状況になっていると感じる。森林整備をしっかりとしていかなければ、災害が発生しやすくなると思うので、山を守っていくことは大切だと感じる。これまでは、モデルフォレストで、民間企業と地元が連携して、里山を守っていく活動をされていたが、コロナや事故等で休止の状態である。愛宕谷川については、来年

から国が支援をして、河川整備という形で倒木林が整備されると聞いている。請田神社周辺の山についても一定整備がされてきたが、予算の関係で整備費用がないと聞いている。山の整備には大変お金がかかってくる中で、どのように整備していこうかというところで、間伐や枝打ちをしっかりとやっていただいているところは、木がしっかりしている。しかし、全く手がつけられていないところはやせ細って、光すら入っていない状態である。やはりそうした現状を把握する中で、計画的に緊急性の高い箇所等をしっかりと考えていきたいと思う。新たに森林に目を向けていただけるような取組もしていかなければならないと思う。木育を通して、子どもたちやその親世代に木の大切さを伝えていく。また、10月31日に開催するアグリフェスタでも、森林を知っていただくようなPRをしていく。林業振興ということで、地元林を使っていたきたいが、亀岡の木として、ブランド力もなく地産地消で使われていないのが現状である。亀岡の木がどこにいつているのか分かっていないので、そうしたところも追跡できて、愛着を持って木を使っていたけるような取組が必要ではないかと考えている。亀岡の木をPRして、亀岡森林を発信していきたいと思う。

<藤本委員>

森林経営計画はできているのか。

<農林振興課長>

亀岡市森林組合において森林経営計画は策定されていない。お金になる山については、亀岡市森林組合が、向こう10年かけて、計画的に地元と調整しながら入っていく。亀岡市森林組合は地元の情報を集約しており、地元に戻元できる山を一定数把握されている。今後、亀岡市として、税金を投入して集約していく分については、できるだけ税金を使わずに、亀岡市森林組合が実施し、亀岡市森林組合ができないところから、亀岡市森林経営計画の新たなシステムの中で整備していくことになる。その中でも、お金が分配できるところは、林業者に委託するが、箸にも棒にも掛からないお金にならない山については、税金を投入して計画的に進めて行く。市においても、森林経営計画を立てていくが、亀岡市森林組合も個別の計画は立てておられ、大きな計画が必要だと思うので、亀岡市と亀岡市森林組合が連携しながら、情報提供して進めていく。

<藤本委員>

お金にならない山は亀岡市森林組合では無理だと思うし、お金になる山がどこにあるのかと思う。農業政策で国が補助整備を推進しているように、国や京都府が、税金をつぎ込んででも整備を進めて行かなければならないと思う。市でやるのも厳しいのに、亀岡市森林組合に任せておいても、計画すら立てられないと考えるがどうか。

<農林振興課長>

今回800万円の予算で出させていただいている計画の中で、十分亀岡市森林組合と調整しながら計画を立てるので、特に亀岡市森林組合ができない部分については、亀岡市が集約して、林業経営者に委託していくことになる。それは競争入札になるので、亀岡市森林組合も参加していただくことになる。

<赤坂委員長>

亀岡市森林組合と一緒に、山に木を切りに行ったときに、亀岡市森林組合の職員に「木を切らないのか」と尋ねたら、「木を切ったらけがをするので、市の保険の関係で木を切れない」と言っていたが、そのようなことはあるのか。

<農林振興課長>

初めて聞いたので、一度確認する。

<藤本委員>

里山再生整備事業について、台風で、家の裏の木がいつ倒れてきてもおかしくない状態になったが、所有者が分からないので、市役所に言っても手の施しようがないと聞いている。そのような人家裏等の危険木の場所は亀岡市で把握しているのか。

<農林振興課長>

自治会から要望があったところは確認している。特に山については、高齢になられた所有者が木を切れない状態になっているところが多々あり、それらを全て受けることは190万円の予算の中では無理である。できるだけ所有者に管理していただきたいという話はさせてもらっているが、どうしても所有者が分からないところは、優先的に調査させていただいている。要望の中で精査してやっているが、要望はたくさんあり、所有者管理が基本であるので、協議させていただいている。

<赤坂委員長>

緊急なところで、今でも倒れそうなところはたくさんあり、そのようなところは、市民から税金をもらっている以上は、亀岡市が木を切りに行かなければならないと思う。190万円の予算を1億円ぐらいにして整備していくべきである。補助金の中だけでちょこちょこ動いているので、別でお金をかけてやれば、後々安くつくと思う。

土砂崩れは国の管轄だが、先日、広聴部会で畑野町に行ったが、人が亡くなっているのに全然整備が進んでいない。これから亀岡市でもどんどんそのようなことが起こる可能性が大きいので、今後、新たに整備していくというようなことはないのか。

<農林振興課長>

危険箇所はあるので、山の所有者としては、整備したいがお金もかかるし、高齢でできないというところも多々ある。その辺りについて、税金を使ってやっていく公平性はあるかと思うが、危険箇所を的確に判断して進めて行かなければならないと思う。現実として、190万円の予算では足りていないのが現状であるが、山にはいろいろな規制があるので、その辺りの整合性や京都府との調整に時間がかかる。また、所有者がある以上は、勝手に木を切ることはできないので、慎重に進めていかなければならないと考える。

<木曾委員>

倒木について分析して対処していかなければ、結果として間伐ができていないところが倒木していると聞いている。森林の状態がどのようになっているのか把握しているのか。意向調査で把握できていない限り、次の手だてに入っていくのは非常に難しいと感じる。材木の市場がどのような状況なのかを含めて把握していかなければ搬出できない。森林面積15,277ヘクタールのうち、意向調査ができたところはどのぐらいあるのか。

<農林振興課主査>

この事業は今年度から始めているが、人工林4,300ヘクタールを林班という小さな単位ごとに分け、スギやヒノキの分布状況や林道の路網の整備状況、都市計画課で取り扱っている道路の整備状況、自治防災課の防災情報を一括したものを大きな地図にまとめて見える化を図っていき、その後、ランキングづけしていく。全体像の把握としては、今年度中にできる予定である。

<木曾委員>

834万9,000円の予算をかけて、今年度中にできるということで、来年度からは、緊急性の高い危険箇所から間伐していく計画になるのか。

<農林振興課長>

関係機関と協議して、どのように進めていくのか今年度に計画を立てたいと思うが、危険箇所からとなると、山の奥になるので、トータル的に10年間を見据えた中で、早く整備ができるような計画を立てていきたいと思う。本来であれば、危険箇所から整備したほうがよいが、まずは木を売って、何とか経営体の中で、プラスが出るような場所から整備を進めていきたいと考えている。その後に、どうしてもできないところは税金を投入してやっていく。そのように、今年度は調査設計して見える化した中で、どのように進めていくかを決めたいと思う。

<木曾委員>

調査が終わって、全体図が見えればどこに委託するのか。亀岡市の予算を見ても、ほとんど亀岡市森林組合の関係になっているが、亀岡市森林組合にそれだけの力量があるのかと言えば、非常に難しいと感じる。せつかく計画を立てて、整備を進めていっても亀岡市森林組合以外に委託しなければならないことになる。亀岡市森林組合に力をつけてもらうまで待てないので、予算をかけてできるところからやっていかなければならないと思う。ほとんどの亀岡市の予算が亀岡市森林組合の関係であるので、調査しても結果として亀岡市森林組合にしか委託できない状況になっている。計画ができて、把握できて、できるところからやるようにすると言っても亀岡市森林組合にそのような力はないので、一部分だけやってもらうというようなペースでやっていけば何年かかるのか。30年40年もかかっているうちに、どんどん環境は悪くなって、間伐してもどうしようもないことになり、作業道もなくなってしまふ。それでも亀岡市は、亀岡市森林組合を事業主体にしていく姿勢は崩さないつもりなのか。

<農林振興課長>

行政区単位で動いており、補助金の交付に関しては、亀岡市森林組合が亀岡市に申請をするので、結果的に亀岡市森林組合ばかりの補助になっている。例えば、日吉町森林組合は、南丹市が実施する分については、南丹市に申請する。森林整備を実施するにあたり、市が集約している部分をどこに委託するかは、審査会をつくって実施する。その中には、亀岡市や京都府南丹振興局が入っている。今、委託先として6事業者あり、日吉町森林組合や京丹波町森林組合も入っている。今後、競争入札を基本として、進めていく予定である。

<木曾委員>

競争入札をすることによって、力量のあるところにやってもらうことができる。山の所有者の方に、できるだけ負担のないような森林整備が進められるようにしていかなければならない。また、民間の森林事業者が参入することもあるかもしれないが、お互いに競争させることによって、技術の向上などいろいろな面で育っていけると考えるがどうか。

<農林振興課長>

競争原理は大事であるし、民間事業者に入ってもらったのも必要なことだと考えるので、力を入れて支援していかなければならないと思う。ただ、山の所有者として、1,000名を超える亀岡市森林組合員がおられるので、亀岡市を拠点に活動されている事業所として、力をつけてもらえるような支援をしていかなければならないと考える。亀岡市森林組合のてこ入れをしないと、体制としてできないことになっている。亀岡市森林組合の体制づくりをしていき、競争させるとともに、亀岡市森林組合を育成していくことが大切であると考えている。

<木曾委員>

過去に亀岡の山を持ち、成形してきたのはほとんど亀岡市森林組合ではない。個人で経営して、山は成り立っていた。そこから考えても、亀岡市森林組合が全てやらなければならないことはない。元々は民間で全てやっていた。私が小さい頃は、亀岡市森林組合はあったが、林業者を育成するための機関であって、間伐などは全て民間でやっていた。その時代は、電柱も全て木材であったので、木材の需要はものすごく高かった。ウッドショックによってどのような状況になって、日本国内の材木の需要がどのようになっているのか、しっかり把握しないと山の所有者もやってもらうのはよいが、お金がかかるのなら諦めてしまう。儲かるように、せめて補助金を使って還元できるようにしないとどこもやるとは言わないと思うがどうか。

<産業観光部長>

新たに森林経営管理制度ができて、国でも制度を変えていかなければならないと取組が進んでいる。林業は昔に比べて廃れてきて、山の乱れにつながってきている。林業は防災とも関連して大きなウエイトを占めていくと思うので、亀岡市森林組合を育てていくことも必要だと考えている。競争原理を入れながら、お互い切磋琢磨しながら事業を進めていき、よりよい形で、森林経営管理制度を進めていきたいと思う。よいところは残しながら、また、新しく加えていくところは、変えていくということで、今後関係者と協議しながら進めていきたいと考える。

<赤坂委員長>

あまり時間がないので、事業計画を出していかなければならない。危険はそこに迫っている状況である。間伐していけばよいだけで、たやすいことである。亀岡市森林組合の組合長もころころ変わっているから駄目である。2億円近くお金がある中で、機械を買って、人を雇ってできるはずなので、そのような指導を厳しくすべきである。

<藤本委員>

森林整備に関して、このような安い予算ではできるはずがない。実現していこうと思えば、予算を抜本的に見直さなければ、計画はできてもこのような予算ではできない。その辺りの予算づけをしっかりとしていただきたい。

<農林振興課長>

限られた財政であるので、厳しいところもある。その中で、亀岡市森林組合では、この9月から1人新規採用され、来年4月からも1人採用すると聞いているので、亀岡市森林組合も真剣に取り組もうとおられる。組織として、核になる方をどこかから来ていただくよう、亀岡市森林組合にお願いしている。経営体として強くなっていただいて、やっていくことが必要だと思う。現状を見据える中で、今後どのようにしていくのかをしっかりと調査するとともに、関係機関と協議しながら進めていきたいと思う。

<小川委員>

意向調査によって、亀岡市の森林の全体像が出てくるのか。

<農林振興課主査>

この調査によって、森林簿や輪番図がデータ上出てくる。そこからランクづけして、詳細設計から間伐まで入っていく。ランクづけしたものは、市が所有者から委託を受け、林業事業者に入札をかけていく。入札で決まった事業所へ再委託して整備を進めていくことになる。

<小川委員>

亀岡の木のブラド化も進めていただきたい。ウッドスタート宣言をして、新たに木に親しんでもらうようなことを考えているのか。

<農林振興課長>

11月13日・14日に開催される「削ろう会」に合わせて、木育キャラバンという移動おもちゃ美術館を開催し、子どもたちや、保護者の反応を見ようと思っている。また、木のおもちゃプレゼントを考えているところであり、亀岡の木材を使用したかったが、地元産の木材が出回っていないので難しく、京都府内産の木材を使う予定である。子育ての所管と十分協議して、木育を進めていきたいと思っている。

<小川委員>

地元産の木材を使って、地元の職人が作ったものもふるさと納税の返礼品に出していってもらって、亀岡市の木を知ってもらうことも大事であると思う。

また、倒木については、国道や府道、市道の管理者と連携しながら森林整備をやってもらいたいがどうか。

<農林振興課長>

市内には木工作家が9軒ほどおられる。いろいろなジャンルがあって、おもちゃを作っておられるところは2軒ほどである。来週、木工作家に集まっていたいで、御意見を伺う予定であるので、また、委員会に提案させていただく。亀岡の木材をどのように使っていけるのか、進めていきたいと思う。おもちゃだけではなく、いろいろなところで、亀岡の木材を使ってもらえるような仕組みづくりを考えていかなければならないと思っている。

<小川委員>

今後、予算要望もしっかりとお願いする。

<菱田委員>

亀岡市の林業の総合的な進行計画はあるのか。

<農林振興課主査>

亀岡市は市町村整備計画を作成しているが、全体計画であるので、詳細に亘る総合的な計画はない。

<菱田委員>

総合計画が必要な時期に来ていると思う。林業で生活をされていた時代から、山がお荷物になっている時代へと変わる中で、個人で山の管理ができないから、国が市町村に、森林経営計画を立てて管理しなさいといっているということである。林務・鳥獣対策係は、林務と鳥獣対策の両方をやっていかなければならないが、山の役割は大きいため、人と予算をしっかりと確保しなければ厳しいと思うがどうか。

<産業観光部長>

林務の関係については、委員会でも人員の確保というところでの御意見をたくさんいただいているので、予算や人員確保を要望していきたいと思う。しかし、担当課に聞いていると、職員定数が枠よりも多いということで、削減する方向で言われている。職員や再任用の職員を含めて人員の確保に努めていく。

<菱田委員>

必要なところに、必要な人を充てるということが大事であると思うので、部長としてしっかり訴えていただきたい。

<産業観光部長>

部としての、希望を訴えていきたいと考えている。

<菱田委員>

人員を確保しながら、森林整備を進めていただきたい。見込みとして、4,300ヘクタールを整備しようと思えばどのぐらい時間がかかるのか。

<農林振興課長>

課の処理能力として、1年間で3輪番ぐらいしかできないので、10年でも難しいと考える。20年30年とかかるかと思われるが、その中で、緊急性の高い箇所からやっ払いこうとしている。今後、やっていく中で、ノウハウがある程度できてくると思う。集約をかけるにしても、所有者とのやりとりになるので、業務委託といっても全て任せることはできない。行政が最初は入り口をつくっていかねばならないと考える。

<菱田委員>

10年かかると、亀岡の人工林を見たときに、終戦後の昭和20年代後半～30年代に植えられた木が、伐期になっている。さらにそれが10年たつとどうなるのか心配である。一気に片づければ、一気に植えなければならず、山が崩れやすくなるので、いろいろなリスクがあり、うまく整合性を見ながら、スピーディにやってもらいたい。そういう意味で、職員もしっかりした人が必要なので、そのようなことを踏まえて今後の活動をよろしく願います。

<木曾委員>

亀岡市として、木育を主としてやっていくのなら、例えば、公共施設を木材を使った施設に転換していくことや、公立保育所は全て木育を観点とした整備を進めること、新文化資料館構想もあるので、木材を使うなどによって、啓発と木育を兼ねた部分でやっていかないと難しい。また、移住・定住や古民家再生などについても、亀岡の木材を提供するようなシステムづくりなど積極的な目標がない限り、材木の需要を喚起することは難しいと思う。公共施設に関しては、国や京都府の補助金があるので、積極的に利用してもらいたい。循環性のあるものにして、木材を消費していかなければならない。亀岡市全体として、連携しながらやっていってもらいたいかどうか。

<農林振興課長>

環境先進都市として、いろいろ取り組んできて、次のステップは農業や森林であると考えている。次のステップへ進めるように、いろいろな施策を検討していきたいと思う。例えば、有機農業や二酸化炭素を減らすような取組を提案していきたいと考えている。関係者と話をする中で、亀岡の材木は手に入らないと聞いている。また、家を建てるのに木材を使えば、固定資産税が高くなるということも聞いている。一つのことを変えていこうと思えば、農林振興課だけでは難しいところがあるので、そのような声を聞きながら組織の中で話をしていきたいと思う。

<木曾委員>

亀岡の木材を使用した場合は、固定資産税を減免するようなことも考えられると思うので、条例等を整備しながら進めていただきたい。

脱炭素宣言をするだけでなく、環境整備の中でいろいろな施策を考えていただきたいと思うがどうか。

<産業観光部長>

市長の政治姿勢の中で、環境先進都市を目指していくということで進められているので、環境・農業など関係する部分で市の中で知恵を絞っていくと、よい形で動いていくことになると思うので、今後とも関係機関等と調整していく。農林を中心に検討を進めていき、よりよい市政の運営ができるように努めていく。

<木曾委員>

結局、農林だけのことを考えても無理がある。亀岡市全体として考えていただきたい。

<産業観光部長>

農林を中心に、他の部署にも意見を求めながら、亀岡市全体としてやっていきたいと思う。

<藤本委員>

ウッドスタートもおもちゃだけではなく、かめまるのキーホルダーや、プラごみゼロ宣言もやっているのだから、お茶碗等の食器も考えていただきたいと思う。また、環境先進都市と言っているのだから、保津川下りの船も全て亀岡産の木材にし、亀岡市の環境先進都市のシンボルにしていくというような発想がないと変わらないと思うので、いろいろと提案していただきたい。

<赤坂委員長>

たくさんよい意見が出たと思うが、まずは、しっかりと予算と人員を確保していくことが大事である。整備に20年も30年もかかってしまうようでは、木を育てるのにも何十年もかかってしまうので、できるだけ早く整備をお願いする。

また、亀岡市森林組合の組織のてこ入れが必要であると考え、いろいろなアドバイスをしあげればよいと思う。

意向調査についても、来年にはある程度説明ができる形をつくってもらいたいし、また、意見交換をさせていただきたいと思う。

<福井議長>

せっかくよい議論が出たので、委員会として提言書等を出していってもらおうのも一つであると思う。

<赤坂委員長>

まとめてしっかりと提言書等を出していきたいと思うがよいか。

(全員了)

11:46

<休憩 11:46～13:00>

(2) 農業担い手・都市農村交流について（農林振興課との意見交換会）

[農林振興課長 資料に基づき説明]

13:20

[意見交換]

<小川委員>

農業・農村体験ツアーはどこに委託しているのか。

<食農ブランド係長>

昨年度が1回目であったが、京都市内のNPOに委託しており、NPOが旅行会社と組んで実施した。

<小川委員>

今年度はコロナで中止となったが、近隣から来ていただいて、亀岡の自然や食を体験していただくことは、非常によいと思う。

教育体験旅行は、森の京都DMOと共同でやっているのですが、もっと積極的に誘致していただきたいと思います。今後の取組は。

<食農ブランド係長>

森の京都DMOが窓口となり、一旦全て引き受けて調整を図っている。実際に農家に宿泊いただくことになるので、農家との調整を亀岡市が担っている。残念ながら今年度もコロナの影響で、キャンセルが出ているが、亀岡市に来ていただくきっかけづくりにもなるし、中学生、高校生に亀岡市の農業を体験していただくことは、今後の観光にもつながっていくので、森の京都DMOと連携して、積極的な誘致に努めたいと思う。

<小川委員>

実際に亀岡市内でどのようなことをしたのか。

<食農ブランド係長>

農作業や収穫を手伝うことがメインになっている。

<小川委員>

農家民泊ではないのか。

<食農ブランド係長>

農家民泊を基本に進めているが、現実的には、農家の方の高齢化が進んでいたり、学生を御自宅に受け入れるということで、かなり負担感が大きいこともあり、現在は市内の農家民宿を活用している。

<赤坂委員長>

毎年、アグリフェスタや「やおやおや」をやられているが、毎年同じ内容だと感じる。新しいことはやらないのか。

<食農ブランド係長>

アグリフェスタについては、私もこの4月に異動してきた関係もあり、基本的には一昨年度までと同じ形態になっているが、今年度実施する中で、課題等を整理して、来年度については、新しい方向で進めていきたいと考えている。一つ取組としては、アグリフェスタが都市農村交流ということで、できれば、市外からも多くの方に来ていただきたいと考えている。広報については、例年市内が中心であったが、今年度からは、広報プロモーション課と連携して、グーグル広告を使って、京都市内等の子育て世代を中心に発信していこうと進めている。

<農林振興課長>

コロナ禍で昨年も動けていないし、新たな形をつくっていく必要があると感じる。ただ、農林だけではなく、環境先進都市というところをアピールできるように、今回は、電気自動車からの電気を使うなど亀岡市の農業のブランドを上げていくようなことをしていく。今後、全般的に見直し、新たな事業を模索していきたいと思う。

<藤本委員>

たわわ朝霧やガレリアかめおかなどの直売所は、午前中で商品がほとんどなくなってしまふ。ふるさと納税の返礼品等で亀岡産の野菜等のレベルが上がっていると思うが、京阪神に隣接している亀岡ならば、もっと生産力を上げて、販売できる体制がつかれると感じるがどうか。

<食農ブランド係長>

直売所の商品が午前中でなくなってしまうことについては、昨年度、亀岡産農産物の新しい魅せ方提案業務において、なごみの里あさひに会場いただく方にアンケート調査等を行っており、その中でも4割の方が、商品が午前中でなくなってしまうので、量を増やしてほしいという要望が出ている。一方では生産者の高齢化が進ん

でいる状況で、なくなった商品をすぐに補充することは難しい状況であると聞いている。六次産業化は大変重要であるので、例えば、インターネットを使って、すぐに補充するシステムづくりなど、いろいろ考えられると思うので、今後研究を進めていきたいと考える。

<小川委員>

教育体験旅行について、観光など関係部署と連携しながら、市外に発信していただいて、移住・定住を含めて考えてもらいたいと思うがどうか。

<産業観光部長>

産業観光部として、連携しながらやっていく。

<農林振興課長>

教育体験旅行について、旅行会社と話をしていると、プログラムのメニューがいろいろあるほうが有利だと聞いている。環境先進都市の取組や川の駅・亀岡水辺公園からの舟下り、農業体験など子どもたちが楽しめて、教育につながるようなメニューをたくさん持つことが重要である。そのようなメニューを亀岡市全体の中で連携して行って、旅行会社に売っていけるものをつくりたいと思う。

<小川委員>

そのように発信していけば、亀岡市も注目されるのでよろしく願います。

京野菜として、亀岡で柱となるような特産品を掘り起こしていただきたいと思う。

<藤本委員>

かめおか四季菜マップはとてもよくできていると思うが、野菜だけではなく、亀岡の果物について、ふるさと納税の返礼品を含めて、年中対応できるような体制は組まれているのか。

<食農ブランド係長>

果物については、現状このようなマップは作っていない。ふるさと納税の返礼品に関しては、いちごは返礼品となっており、人気があるがそれ以外の果物については返礼品になっていない。

<赤坂委員長>

霧が多いと果物等はできにくい。

農業の担い手支援について、機械の導入補助の金額が安いと思うがどうか。

<農林振興課長>

機械が大変高額になっており、新規就農の方は何もなしで入って来られるが、京都府の補助事業は、一定の面積で作らなければならないことや一定の収益を上げなければならないことなど条件のハードルが非常に高くなっている。そうした中で、亀岡市の独自事業として、中古も購入できるようになったので、導入がしやすくなったと、新規就農の方に喜んでもらっている。さらに、機械を取得しやすくする方法や、所得補償をしっかりとする方法を検討していく。

<菱田委員>

地域担い手応援事業について、現在の申請状況は。

<担い手支援係長>

今年度の応募状況は、4月に第1回目の募集をかけたところ、3名から手が挙がっており、合計で325万5,000円の交付決定をした。その後、京力農場プランなどの要件を少しずつ満たしていただいて、1カ月以内に、第2回目の募集をかける予定であり、現時点で、9名から問合せいただいております。今年度の1,000万円の予算は執行できる予定である。

<菱田委員>

財源がふるさと力向上基金繰入金ということで、新規就農者にも返礼品等が出せるように、また、直売所に出す人には欠品させないように、頑張ってもらいたいので、当初予算は1,000万円であるが、足りなければ、補正してでも支援していただきたいがどうか。

<産業観光部長>

必要性があれば、補正していく。

<菱田委員>

新規事業であるので、予算が余るのではなく、足りないぐらいであってほしい。また、京力農場プランに中核的担い手として位置づけられた認定農業者等の支援になるので、京都府からも支援していただければよいと思う。要望しておく。

<赤坂委員長>

予算はこのぐらいでよいではなく、ある程度しっかり取っていただきたい。

<産業観光部長>

しっかり確保できるようにするので、予算審査の際はよろしく願います。

<小川委員>

午前・午後といろいろお話を聞かせていただいた中で、里山、田畑、有害鳥獣など様々に関わってくるので、予算や、京都府との人事交流、補助金要望などしっかりしていただいて、環境先進都市を含めて取り組んでいただきたいがどうか。

<産業観光部長>

いろいろと御意見をいただいたので、市全体を見る中で、人員や予算の確保にしっかりと取り組んでいきたいと思う。

13:46

[産業観光部退室]

<赤坂委員長>

この後は、現地視察を行うのでよろしく願います。次回は、10月26日(火)、午後1時30分から、委員会を開催するのでよろしく願います。

散会 ～13:48